

中濃農林事務所の普及活動状況

令和2年12月31日現在

今月の重点活動

■キウイフルーツ 令和2年度飛騨美濃特産名人に認定

12月25日に、岐阜県庁で令和2年度飛騨美濃特産名人認定証授与式が開催され、関市の神山博和氏がキウイフルーツ名人として認定された。

神山氏はJAめぐみのキウイフルーツ生産部会（設立時：洞戸村キウイフルーツ生産組合）の設立時からのメンバーで、部会長を平成22年から現在まで11年間務め、溶液受粉・環状剥皮など栽培技術の普及や、販路開拓・産地PRに尽力された。

授与式では、知事から「初めてキウイフルーツで認定。今後、後進の育成に、また産地の牽引役として尽力いただきたい。」、と激励の言葉がかけられた。



【知事から認定証を授与】

(地域支援係)

新たなブランドづくり

■水稲種子 令和2年産の水稲種子発芽良好

農業普及課では、健全・優良な水稲種子生産のため、収穫された種子の生産物審査（発芽率、品種混入、病害虫粒審査等）を行っている。

12月までに中濃地域で生産された種もみの審査を終了し、「あきさかり」、「モチミノリ」、「あさひの夢」、「みのにしき」、「ハツシモ岐阜SL」のいずれの品種も全量合格となった。

審査に合格した種もみは、JAめぐみの種子センターにおいて順次精選され、農産物検査を受けた後、種子として県下各地に供される。



【精選後のR2年産種子】

(地域支援係)

■花き 第3回中濃庁舎フラワーフライデーを開催

県では、家族や大切な人と過ごす週末の楽しい時間に岐阜の花を添えることにより、県産花きのPR・利用拡大につなげることを目的に、県庁舎内で県産花きの販売を行う“花と帰ろう！「フラワーフライデー」”を実施している。

12月18日、農業普及課が事務局となって「第3回中濃庁舎フラワーフライデー」を開催した。この日は、クリスマス・正月向けの寄せ植え（鉢、ミニプランター）、この時期の門口飾りに最適な葉ぼたんの寄せ植え（鉢）、冬の花壇によく似合うジュリアンの花苗（4色）を予約販売し、庁舎内各所属のほか庁舎管理会社を含め多くの職員が計234鉢の花を購入した。

農業普及課では今後も「フラワーフライデー」を計画し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている管内の花き生産者を支援していく。



【販売した寄せ植え】

(地域支援係)

多様な担い手づくり

■農福連携 **中濃地域農福連携会議の設立**

地域の農業と福祉に関わる関係機関が連携を深め、農福連携の課題を把握し、その取り組みを推進することを目的に中濃地域農福連携会議を11月に設置した。

12月11日に中濃・可茂・郡上農林事務所合同で「農福連携会議設立趣意説明会」を開催し、各地域の農福連携会議について、出席した福祉・農業の双方の構成員へ説明し、活動方向などの意見交換を行った。

福祉事業は中濃・可茂・郡上の圏域全体で取り組まれていることから、今後も中濃圏域で連携を取りながら、合同の意見交換会や研修会等を行い、各地域の農業と福祉について相互理解を深め、農福連携を推進していく。



【説明会の様子】

(地域支援係)

■新規就農者 **スマート農業・GAPの取組み推進**

J Aめぐみでは、就農研修生と就農5年以内の新規就農者を対象に、毎年集合研修を開催している。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として開催時期をずらし、消毒等を徹底したうえで、研修生がオンライン受講を選択できる体制を取り、10月から計13回の計画で開催されている。

主にJ Aや農業普及課（中濃、郡上、可茂）の職員が講師を担当し、12月25日のスマート農業・GAPの講義では中濃農林事務所が講師を務めて県内のスマート農業の事例や新しく始まったぎふ清流GAP評価制度等について説明した。

今年度は、2月までに残り4回の講義が計画されており、農業普及課では継続して支援していく。



【研修会の様子】

(地域支援係)

住みよい農村づくり

■アグリ・エンジョイネット岐阜 **武儀地区変わり餅加工研修会の開催**

12月3日、アグリ・エンジョイネット岐阜武儀地区が、美濃市で変わり餅（もち米にきびや黒米、黒豆等を入れて搗いた餅）加工研修会を開催し、会員10名が参加した。

この研修会は、農村女性が培ってきた生活技術等の伝承と会員相互の交流を目的として開催され、会員が講師となって加工方法等について研修し、意見交換を行った。

農業普及課では、地元食材の活用や食の伝承を目的とする地域活性化活動を今後も継続して支援していく。



【研修会の様子】

(地域支援係)